令和８年４月25日

小学生バレーボール指導者　各位

鹿児島県小学生バレーボール連盟
競　技　委　員　会
審　判　委　員　会

1　試合開始前，監督は選手の名前と番号をスコアシートのチーム選手欄に記入するか，記入内容を確認した後，サインをする。

2　チーム・キャプテンは，「サービスを**行う**。」，「サービスをレシーブする。」又は，「どちらのコートに入るか。」を選択させる。

3　**各セットの開始前**，監督はスターティングラインアップを記入したラインアップシート（目玉）をスコアラーが十分な余裕をもって転記できるように提出しなければならない。ラインアップシートは正しく記入してサイン後，２ndレフェリーに提出する。ラインアップシートの提出が遅れて，ゲームが予定時刻どおりに開始されなかった場合，「チームメンバーが試合を遅らせること」が適用され（監督もチームメンバーである），遅延行為に対する制裁が適用される。

4　ラインアップシートが２ndレフェリーに一度提出された後は，正規の選手交代をせずにラインアップを変更することは認められない。

5　両チームが事前に試合コートでウォームアップをしている場合，ネットを使用した試合開始前の公式ウォームアップは，両チーム合わせて６分間行うことができる。

6　どちらかのキャプテンが相手チームとは別に（連続して）ネットでの公式ウォームアップを要求した場合，各３分間行うことができる。

7　日本においては，公式ウォームアップは，別々で行うことが多い。公式ウォームアップを両チームが連続して（別々に）行う場合は，最初のサービスを得たチームからネットを使用してウォームアップを始める。隣のコートが空いていても，当該試合コート以外は使用できない。また，ネットを使用してウォームアップを行うチームが，サービスのウォームアップを行ったら，ネットを使用してウォームアップを行わないチームは，速やかにコートを空ける。

8　セーフティタイムアウト（ＳＴＯ）について

大会実行委員会において，ＳＴＯが設定される場合は，次のとおりとする。

選手の健康と安全に配慮をするために導入されているが，近年，ベンチスタッフが指導する場面が多く見られた。ＳＴＯ中における選手の位置はこれまで曖昧であったため，ベンチ横からウォームアップエリアの間とし，ベンチスタッフによる関与は，健康観察のための声掛け程度にとどめることを再確認する。

ＳＴＯは健康観察を目的とするため，30秒間は指定の場所にとどまるものとする。（30秒を待たずにコートに入ることはできない。）

選手はウォームアップすることはできない。また，ホイッスル前にベンチスタッフの前に集合することなく，ホイッスル後，速やかにコート内に入ること。

9　監督は，試合を妨害しない限り，自チームアタックラインの延長戦からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内において，立ちながらでも歩きながらでも選手に指示を出すことができる。**ただし**，

ラリー中はベンチに座らなければならない。長いラリーを制した後など選手とハイタッチすることもできない。

上記については，令和８年度（～10月まで）は，「監督がラリー中は，ベンチに座る」ことについては，検証の対象となる。

以上を踏まえ，

監督が，試合中，自チームベンチ前のフリーゾーン内で，立ちながら歩きながら指示を出している場合，ラインジャッジ（特にＬ２・Ｌ３）の判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。ラリー終了後，レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては，直ちに罰則を適用する。

となる。

10　選手への指示や声掛けについても，「第三者が聞いて不快と感じる」場合は，制裁や罰則の対象となりうる。

11　ベンチへの持込物について

(1)　飲料水については，原則としてペットボトルの持込みは不可とする。ただし，スクイズボトルや吸引式ボトルでなくても，ワンタッチ式のふた付き水筒であれば認める。

なお，ペットボトルの持込みについては，体育館の利用規定に準じて大会ごとに定めるものとする。チームがペットボトルに入った飲料をこぼした場合は，柄付きモップではなく，チームで準備したタオル等で拭き取ること。

(2)　キャンプカートについては，安全面及び屋外の汚れを入れない観点から使用禁止とする。

(3)　試合中の携帯電話やトランシーバー等の通信機器の使用は，止むを得ず選手の安全や健康管理上の観点から使用する場合を除き，ベンチにおいて使用を禁止する。また，スマートウォッチについては，時計としての使用は認める。通信機器やカメラとしての使用は，禁止する。

12　試合中の応援団グッズの使用及び応援マナーへの対応については，平成19年に監督から選手への指示の声が聞こえなかったり，選手が集中できなかったりするという理由から，太鼓・ラッパなどの大音量を発生する「鳴り物」は複数コートで試合をしているときには使用しないとの通知が行われ，現在も適用されている。メガホン及びバルーンは鳴り物に該当せず，使用については規制してはいない。応援によって選手を励まし，大会を盛り上げることは素晴らしいことであるが，反面応援が選手にとってマイナスとなるケースも見られるので，応援のマナーとして特に以下の点について指導していくこと。

(1)　審判のホイッスルが聞こえなくなるようなプレー中の応援はしないこと。

(2)　相手チーム自チームに限らず，選手が萎縮してしまうような罵声は出さないこと。

13　試合終了後，監督・１stレフェリー・２ndレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに握手を交わす。

【引用文献】

公益財団法人日本バレーボール協会審判規則委員会(2025).バレーボール６人制競技規則，公益財団法人日本バレーボール協会.

日本小学生バレーボール連盟競技委員会（2025）.令和７年度全国審判講習会資料.　日本小学生バレーボール連盟.